

四條畷市福祉計画検討委員会 H30.8.29

＜議事録 高齢福祉課分＞

(事務局)

それでは、定刻になりましたので、只今から「四條畷市福祉計画検討委員会」を開催させていただきます。

わたくし、司会を努めさせていただきます福祉政策課の田中と申します。よろしくお願いします。開催に先立ちまして、健康福祉部長の松川から挨拶を申し上げます。

[松川部長あいさつ]

(事務局)

それでは、本日の会議の成立について、報告させていただきます。本日は福祉計画検討委員会委員21名中18名が出席でございます。四條畷市福祉計画検討委員会規則第3条第2項の規定により、過半数のご出席をいただいておりますので、会議は成立いたしますことを報告いたします。

次に、今回が委嘱後初の委員会となります委員につきまして、ご紹介させていただきます。

ふくい せつこ
福井 節子委員です。(母子寡婦福祉会会長)。よろしくお

願いいたします。

次に、事務局職員を紹介させていただきます。

健康福祉部長の松川です。福祉政策課長の岸本です。高齢福祉課長の阪本です。高齢福祉課課長代理の菅井です。あらためて福祉政策課の田中です。どうぞよろしくお願いします。

この後の各計画の審議におきまして、それぞれ担当課の職員から説明させていただきます。

1 つ目の案件「なわて高齢者プラン」については、高齢福祉課より説明させていただきますので、この後、部長の松川、については、退席させていただきますので、ご容赦くださいますよう、願いいたします。

それでは、これ以降の議事につきましては、規則第 3 条第 1 項の規定により、委員長が議長となることとなっておりますので、小寺委員長に願いいたします。

【松川部長退席】

(小寺委員長)

よろしくお願いします。本日は、議題といたしまして、「なわて高齢者プラン」「なわて障がい者プラン・障がい福祉計

画」「なわてみんなの福祉プラン」の3課にかかわる議題でございます。

それぞれにご審議いただくこととなりますが、限られた時間のなかということになりますので、何分よろしく願いします。

それでは、「なわて高齢者プラン」について、事務局、説明をお願いします。

(事務局)

はい、それではお手元の資料の「なわて高齢者プラン2018」に基づく平成30年度主要な事業進捗状況報告書に基づき、説明させていただきます。施策の展開にございます、1 介護予防と社会参加の促進、(4) 生きがい・交流事業の充実、福祉農園(プランP41)でございます。今年度の取り組みと目標ですが、4月20日(金)に障がい者農園とともに、高齢者農園の受付・抽選を行ないました。今後は高齢者農園の利用状況把握を行なうとともに、必要に応じて市民農園および障がい者農園についても案内を行なうなど、待機者の解消に努めていきます。次に、④交流やふれあいの

場・機会づくり（プランP43）でございます。今年度の取り組みと目標ですが、老人福祉センター「楠風荘」については、更なる高齢化が進行する中で、利用者が日々の生きがいくくりや団体での会合等、ふれあいのオアシスの場・生涯学習の場として利用してもらえよう、自主事業の充実などにより利用者増に努めていきます。なお、今年度は現指定管理者に委託する最終年度に当たることから、次年度以降の平成31年度から平成35年度までの5カ年について、新たに指定管理者を公募したうえで選定を行ないます。また、今年度も9月12日（水）に市民総合センター市民ホールに於て、敬老会を開催します。本年も百歳を迎えられる市民の方に登壇いただき、式典において市長から祝い状等をお渡ししたいと企画しており、6名の方に登壇いただく予定としております。また、式典後に実施するお祝いイベントについても、来場者の皆さんに楽しんでもいただけるよう、出演者とともに参加してもらえる内容として、日本手品や杉良太郎そっくり歌謡ショーを予定しています。老人福祉施設の入所者を招待するほか、日頃から高齢者の見守り活動を行っていただいている民

生委員を来賓として招待するなど、敬老会にふさわしいものとしていきます。なお、今年度も百歳表彰者11名のもとを全て訪問し、直接お祝い状等をご家族等が同席のうえ、お渡しさせていただくことにより、表彰者本人だけでなく関係者の方々にも喜ばれるよう、長寿のお祝いにふさわしい事業としていきます。続きまして、⑤地域支え合い体制づくり事業の推進（プランP44）でございます。今年度の取組みと目標ですが、平成29年度から各活動団体が集う全体連絡会議を開催し、市域全域での高齢者の居場所づくりの構築に努めています。今後の活動内容の充実につなげてもらうこと等を目的とした当会議を今年度も10月と来年2月に開催する予定としています。また、地区ふれあいサロンの活動内容を広く市民に周知していくため、10月広報誌並びに市ホームページにおいて、活動地区一覧をあらためて更新・掲載します。なお、今年度のふれあいサロンへの補助金事業につきましては、5月区長会や各ふれあいサロンに説明を行ったうえで申請を受付けています。現在19地区からの申請があり、速やかに補助金交付を行なう手続きを進めているとともに、

申請されない地区に対してもあらためて説明を行うなど、市内各地区にふれあいサロンを広めていきたいと考えています。引き続き、各活動団体や関係機関と連携し、高齢者が気軽に利用しやすく、介護予防にもつながるような仕組みづくりを築いていきます。次に、2 日常生活を支援する体制の整備・強化、(1) 介護保険制度以外の高齢者福祉サービスの充実、⑦生きがい生活支援型の通所事業（プランP50）でございます。今年との取組みと目標ですが、「街かどデイハウスさんら」については、利用者増をめざし、事務局の社会福祉協議会と周知・啓発を行なうとともに、府交付金の確保に努めていきます。「ふれあいサロン」については、地域支え合い体制づくり事業補助金を実施しており、昨年度は20地区からの申請がありましたが、今後も「ふれあいを育む活動」として高齢者の生きがいづくり等に関わる事業を実施する地区・地域に対し支援・補助を行っていきます。「ふれあい元気クラブ・えんじょい」については、平日の午前10時から午後4時の間で午前と午後に分け、囲碁・将棋をはじめとした娯楽や書道教室、健康体操、歌体操などを実施して

います。また、高齢者の情報通信技術向上に向け、今年度も携帯電話の安全操作教室等を企画していきます。利用者数は増加傾向にあり、西部市街地の高齢者がふれあえる拠点施設として、その役割を達成しつつありますが、引き続き運営委員会において市民への周知を図っていきます。

これらの通所事業について、今後も地域支え合い体制づくり事業と総称して推進していきます。続きまして、（３）介護予防・日常生活支援総合事業の開始に伴ったサービス提供体制の整備（プランP 6 3）、ア 協議体の設置及び生活支援コーディネーターの配置でございます。今年度の取組みと目標ですが、平成30年8月から第2層のコーディネーターを配置し、第2層の協議体の設置をめざしていくとともに、住民が主体的に地域課題を把握し、解決を試みる体制づくりを支援するために、地域共生社会の実現を推進していきます。

次に、イ 住民主体の地域福祉活動の支援・活用の今年度の取組みと目標ですが、住民主体サービスBや移動支援サービスDを構築するため、住民活動をはじめとした地域資源の発掘等について協議体で議論し、くすのき広域連合でサービス

提供できる環境を整えていきます。続きまして、ウ 情報提供に向けた環境整備についての今年度の取組みと目標でございますが、介護保険事業者等に対し、総合事業の更なる周知を図っていきます。引き続き、3 地域包括ケアシステムの構築・強化でございます。（1）地域包括支援センターの機能強化（プランP 6 5）の今年度の取組みと目標となりますが、地域包括ケアシステムを深化推進していくため、地域ケア会議はもとより、在宅医療連携会議や生活支援協議体および生活支援コーディネーターとの連携を図り、地域課題の発見・解決に取り組みます。また、介護予防ケアマネジメント検討会議（自立支援型地域ケア会議）を立ち上げ、高齢者の自立支援に向けたケアマネジメント力の強化を図るとともに、多職種との連携を強化していきます。続きまして、（2）地域包括ケアシステムの基盤となるネットワークや体制の整備（プランP 6 6）、①地域包括ケア会議の強化でございます。今年度の取組みと目標ですが、介護予防ケアマネジメントに資する自立支援型地域ケア会議を立ち上げ、多職種で個別計画の検討することにより、高齢者の介護予防の推進に

取り組みます。また、これまでの地域ケア会議において明らかになった地域課題について、多職種検討の必要性に応じて全体会議の開催を検討していきます。続きまして、②医療と介護の連携強化（プランP 6 7）ですが、今年度の取り組みと目標といたしまして、「大東・四條畷 医療・介護連携推進協議会」を設置し、医療・介護連携を図ることで継続した提供体制の構築をめざしていきます。また、資源集の情報の更新を定期的に行えるような体制を整えていくとともに、引き続き医療・介護に関する研修会を実施していきます。次に、

（3）高齢者セーフティネットの整備・充実、ア 見守りサービスへの支援、②高齢者の見守りネットワーク事業の充実（プランP 7 0）でございます。今年度の取り組みと目標でございますが、高齢者が住みなれた地域で安心して暮らし続けることができる地域づくりを実現することをめざし、関係機関との連携に加え、民間事業者の協力を得ながら見守り体制の強化を図っていきます。平成30年度に新たに関西電力㈱大阪北支社及び藍澤証券㈱学園前支店と協定を締結しました。続きまして、イ 災害時における要援護者への支援、①

緊急連絡カード配布事業でございます。今年度の取組みと目標ですが、高齢者が安心して暮らせるよう緊急連絡カード配布事業の普及に向け、民生委員・児童委員に対し必要情報を提供していくことが配付数の増加につながり、セーフティネットの構築が図れると考えるため、今後も個人情報の保護に注意を払いながら事業を推進していきます。次に、③災害発生時における福祉避難所の開設及び運営に関する協定締結ですが、今年度の取組みと目標といたしまして、6月に発生した大阪北部地震を踏まえ、福祉避難所協定4施設を訪問し、避難所開設の準備を円滑に想定できる形についての意見交換を行いました。引き続き、協定やマニュアルの改正も含めた協議・検討を進めていきます。

4 認知症高齢者への総合的支援と高齢者の尊厳の確保、（1）認知症に関する意識啓発の促進（プランP75）の今年度の取組みと目標でございます。「認知症になっても住み慣れたまちで暮らし続けられる」よう、多分野にサポーター養成講座を展開し、認知症サポーターを増やしていけるよう取組みを継続していきます。続きまして、新規事業であります、認知症見守りQRコード

シール交付事業の説明をいたします。9月から、認知症高齢者等の安全確保と家族への支援のため、認知症見守りQRコードシール交付事業を、介護保険事業を運営するくすのき広域連合で開始します。このシールは、アイロンで着衣や持ち物に簡単に取り付けることができ、万一の場合、発見者が携帯電話の端末で読み取ることで、高齢福祉課（くすのき広域連合四條畷支所）や四條畷警察署の連絡先が表示されることにより、早期安全につなげていくものです。8月の広報誌並びに市ホームページへの掲載、関係機関への周知を行なうなど、今後とも事業の普及啓発に努めていきます。

以上を持ちまして、高齢福祉課からの説明を終えさせていただきます。

（小寺委員長）

ただ今、事務局からの説明がありましたが、この件について、ご意見・ご質問等がございましたらお願いします。

（山上委員）

福祉農園について、ずっと51区画のままですが、今後増やしていく予定は無いのですか。

(事務局)

平成26年度までは49区画でしたが、耕して2区画増やし、平成27年度以降51区画としております。

(山上委員)

これは借地ですか。借地代は幾らですか。広さはどれ位ですか。

(事務局)

年額約17万円で借りております。総面積はここではお答えできかねますが、一人当たりの区画は15平米程度でございます。

(山上委員)

地域包括支援センターと同様に3箇所位に設置できないかと思うのですが、この農園はどこにあるのですか。高齢者は1万4、5千人いておりますので、1箇所では少ないと思うのですが。田原地域でも利用希望があると思います。そのあたり如何でしょうか。

(事務局)

農園には市民農園と福祉農園があり、福祉農園には高齢

者と障がい者の農園がございます。一般の市民農園が10箇所所有しますなかで、高齢者農園につきましてはバランスを図りながら検討していきたいと考えております。

(山上委員)

近年51区画から動きが無いことについて、利用料も無料で待機者もいられることから、できたら今後農園を増やしていく計画を掲げていただけたらと思います。介護予防にもつながると思いますが。

(事務局)

田原方面で農園利用のニーズがあるということも第3包括支援センターから伺っております。近年待機者がいなかったなかで今回待機者が出たとのことで、先ほど申し上げましたとおりバランスを図りながら検討していきたいと考えております。

(山上委員)

今後計画性を持って考えていただきたい。

(小寺委員長)

はい。他にございませんでしょうか。

(志村委員)

災害発生時における福祉避難所の開設及び運営に関する協定締結のところの関係で質問させていただきますが、台風などがあった際に、いつも避難準備が南野地域に発令されます。その際、地区の民生委員が避難準備の話をする為に高齢者宅を訪問しても無関心な方が多い状況にあると伺っております。こういった状況のなかで、滝木間公民館や畑中公民館は土砂災害警戒区域となっていて、東小と南中においては、土砂災害の時は避難できないと伺っています。南野に住んでいる人は何処に逃げれば良いのかと思ってしまう。南野に住む人の命を大切にしたいと思うのですが、先日も毎回避難準備が発令される状況を解消できないのかという質問を市長に対して行なった方がいたのですが、そういうものは、日本全国どこにでも有るのでどうにもならないというような答えをされました。南野の方が何処に逃げられる方法を作ることが喫緊の課題だと思うところです。地震と台風を受けてどんどんダメージを受けている場所があると思うのですが、高齢者につ

いては、住みなれた地域で暮らすことが続けられないことにつながると思い、今回話をさせていただいたところです。この件について福祉の方から声を挙げていくべきではと思い、要望として挙げさせていただきます。

(小寺委員長)

はい。この件について事務局如何でしょうか。

(事務局)

南野地区に近いところでは、先日の台風があった際にも四條畷学園を避難所として開設させていただいております。また、要介護度3から5をお持ちの方などを対象とする災害時要援護者登録名簿により、暴風警報が発令されるおそれがある際には、福祉班により事前に連絡をさせていただいております。また、二次避難所となる福祉避難所につきましても、南野の近くでは清滝らくらく苑と協定を交わさせていただいておりますが、本日いただいた要望につきまして、危機管理課に報告させていただきます。

(志村委員)

よろしくお願いします。

(高尾委員)

百歳表彰について、8月1日現在での対象者人数を11名とし、市長から祝い状を渡されると申されましたが、実際には何時の基準で祝い状等が渡されるのでしょうか。

仮に、お亡くなりになられた方はどうなるのでしょうか。

(事務局)

百歳表彰につきましては、国の制度として、当該年度に百歳になられる方に対しまして、9月1日ご生存の方に9月15日付けで内閣総理大臣から祝い状が発行されるものでございます。本市では、9月12日に開催する敬老会で市長の方から、登壇いただける百歳表彰者に直接祝い状等をお渡しさせていただくとともに、登壇いただけなかった方に対しましても、高齢福祉課の職員が施設や病院、ご自宅などへ伺い、ご家族が居られる前で祝い状等をお渡しさせていただいております。

(高尾委員)

よく分かりました。私も対象者になれるよう、長生きしたいと思います。

(山上委員)

災害についてなのですが、福祉避難所協定の現在の状況はいかがですか。

(事務局)

福祉避難所協定につきましては、平成26年10月に締結させていただいており、本年3月にはマニュアルも策定したところですが、大阪北部大震災を受けた際に、通信障害が発生し、福祉避難所開設を想定・準備いただく、1次避難所開設の連絡が円滑に行えなかったころから、7月から8月にかけて4協定施設と協議を重ねてまいりました。事前配布資料のなかで、協定やマニュアル改正も含めた協議・検討を進めていきますとありますが、今回の施設との協議のなかで、9月に協定・マニュアル改正することに向けて現在進めております。

(山上委員)

行政だけではできないと思うのですが、地域を巻き込んだものとしていく必要があると思いますが。

(事務局)

福祉避難所の協定やマニュアルは、1次避難所で生活ができない方を対象とするものとして、協定4施設と確認する旨の協定・マニュアルとなりますが、地域の方々による自主避難も想定されますので、施設に対し市から避難計画案をご提示させていただくとともに、施設毎に避難計画を策定していくことをこの夏に協議を行なった際に確認いたしております。

(山上委員)

避難計画の策定などについて、あくまでも地域ぐるみで、各種ネットワークや団体とも連携されたうえで、進めたいと要望いたします。

(小寺委員長)

はい。他にございませんでしょうか。

(山上委員)

地域包括支援センター連絡会を昨年度4回開かれてますが、これはどういうメンバー構成ですか。

(事務局)

市内3箇所の地域包括支援センターが集う連絡会でありまして、課題などの情報共有を目的として、専門職である主任ケアマネジャーや保健師又は看護師、社会福祉士が会議に参加いたしております。この会議のなかで、委員ご質問の防災につきましても話し合いを行なっております。

(山上委員)

地域が入っていく、地域が主になる会議はありますか。

今後はこのような会議が必要かと考えますが。

(事務局)

地域ケア会議を昨年度は年18回開催しておりますが、この会議のなかで必要に応じて地域関係者の方々に出席いただき、個々の問題解決につなげております。

(山上委員)

地域が自立するようなケア会議としていただきたい。動くのは地域ですし、そういったマニュアルも必要ではないかと思われます。

(事務局)

自立支援型の地域ケア会議につきまして、正式実施は次年度からとなりますが、今年度から一年早くモデル事業として実施させていただいております。委員ご指摘の内容につきましても、新しい会議のなかでの課題とさせていただきます。

(小寺委員長)

他にご意見等ございませんか、よろしいでしょうか。それでは無いようでございますので、これで「なわて高齢者プラン」についての審議は終了させていただきます。